

平成28年第4回町議会定例会

町長行政報告

川 本 町

■行政報告の主な内容（25項目）■

特色を活かした活力あふれる産業のまち

- ・ 水稲の生産振興 5
- ・ 畜産振興 6
- ・ 耕作放棄地対策 7
- ・ 有害鳥獣対策 7
- ・ エゴマの生産振興 8
- ・ 6次産業化 8
- ・ 商工業振興 9
- ・ 観光振興 10

便利で快適に暮らせる基盤が整うまち

- ・ 住宅整備 11
- ・ 町営住宅の改善 12
- ・ 道路整備 12
- ・ 簡易水道 13

安心して暮らしやすい生活環境のまち

- ・ 交通対策 14
- ・ 米軍機騒音対策 14

みんなが健康で安心にいきいきと暮らせるまち

- ・ 介護保険事業 15
- ・ 地域医療構想 15

夢や希望をはぐくむ教育・文化のまち

- ・ 学校教育 16
- ・ 教育環境魅力化事業 17
- ・ 川本北公民館の移転 18
- ・ 社会体育 18
- ・ 人権教育 19
- ・ 文化振興 19

人と人が支え合う協働のまち

- ・ 高校支援 20
- ・ 企業誘致 20
- ・ 窓口おもてなし 21

平成28年第4回町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

師走に入りまして、いよいよ冬間近と感じる次第でございます。都心では54年ぶりに11月に雪が降り、この異常気象は地球温暖化の影響ではないかといわれておりますが、迎える平成29年の新しい年が災害のない平穏な年であって欲しいと願うところであります。

山々の紅葉が進む中、2年前、仙岩寺周辺にボランティアの手によって植栽した山桜1000本がほとんど根付いており、花を咲かす数年先が楽しみであります。

9月定例会以降、実りの秋、文化芸術の秋、スポーツの秋となり、様々な事業、イベントが町民の皆様の主体的運営でなされ、それぞれの事業が順調に推移し、町の活力につながっていますことに感謝を申し上げますとともに、そうしたマンパワー、住民パワーをこれからの地域づくりにどう活かし、どう一緒になって進めていくかということが大きな課題であると考えております。

広島カープの活躍は、広島県民を一つにする独自の文化を感じたところではありますが、このたびの川本中学校・島

根中央高校吹奏楽部の活躍は、これと同じ感動を町民に与えてくれました。

アメリカ大統領選挙では劇的な結果となりまして、世界の政治・経済が混乱しております。経済評論家の当初の予想に反して円安株高に振れています。アベノミクスの成長戦略の柱となるTPPは、トランプ新大統領が反対を明らかにしており成長戦略の見直しは避けられない状況になっています。これからの政治経済の動きを注視してまいります。

開会にあたり、諸議案の説明に先立ちまして諸般の事項についてご報告申し上げます。

人口減少対策を最大の目標として昨年策定した、川本町の総合戦略につきましては、定住対策の推進や、子育て環境の充実などの事業に取り組んでいるところでございます。

この総合戦略につきましては、毎年評価検証を行うこととしており、先般初年度の事業について、自己評価、庁内委員会による評価を経て、外部委員による評価を行いました。

人口ビジョン達成の大きな要素である、社会人口の増減や合計特殊出生率について、前向きな数値が報告されておりますが、成果の見えにくい事業があるのも事実でございます。

引き続き、かわもと暮らし情報センターなどと連携し、交流の拡充や移住・定住を実現するための取り組みを充実するとともに、保・小・中・高連携による教育環境の充実や、教育移住に対する取り組みなどを強化していくこととしております。

また、雇用の場の確保が期待できる株式会社三協の平成30年4月操業開始に向け、ハード・ソフト両面から全面的な支援を続けてまいります。

J R 三江線につきましては、J R 西日本が平成30年3月末をもって廃止するとの届出を9月30日、国土交通省に行い、三江線の廃止が確実のものとなりました。

これからは、三江線廃止後の地域公共交通を整備するとともに、地域の活性化に取り組んでいく必要があります。

このため、11月には地域公共交通活性化再生法に基づき、沿線住民の代表も参画していただく法定協議会を立ち上げるとともに、今月には鉄道事業法に基づく地元協議会も設置される予定となっております。

川本町内の公共交通につきましても、これらと連携し検討を進めることとしております。

10月23日には、坂町姉妹縁組30周年記念式典を悠
邑ふるさと会館で行いました。この30年間、両町の交流
は、子どもから高齢者までスポーツ、文化、イベントなど
様々な分野で、多くの方々による交流が盛んに行われてま
いりました。式典では、友好的な交流の輪を広げている両
町自治会組織の団体に感謝状を送り、その功績を讃えました。

今後ますます交流を深め、両町の発展を誓い合うことが
できました。

本町のふるさと納税につきましては、川本町出身者をは
じめ多くの皆様から寄附をいただいております。11月末
現在の寄附状況は、126件、710万円となっており、
学校教育など多くの事業に活用しております。

また、寄附に対するお礼の品につきましては、今年度か
ら返戻率を引き上げ、5万円を上限として、寄附額の50%
相当の特産品等を選んでいただけるよう見直しました。

新たに、川本町産オオクワガタ、鮎、ツガニ、三原米、
有機エゴマ油などを返戻品に加えております。こうした旬
の食材や産物は大変好評をいただき、本町をPRする格好
の機会となっております。

今後も、川本町が「第二のふるさと」と実感していただ
けるよう、ふるさと納税制度を効果的に活用してまいります。

それでは、町行政の主な動きにつきまして順次ご報告申し上げます。

まず、

「特色を活かした活力あふれる産業のまち」に関する動きについてであります。

(水稻の生産振興)

はじめに、水稻の生産振興について申し上げます。

平成28年産米の作況指数は、全国で103、島根県で104となりました。

11月17日現在、JAしまね島根おおち地区本部管内では、「心白粒」等により1等米比率は、84.4%と前年を下回っておりますが、川本支店管内では86.9%で、前年の83.2%を上回っております。品種別の1等米比率は、「コシヒカリ」86.5%、「きぬむすめ」85.8%、「つや姫」80.7%、「ハナエチゼン」93.4%となっております。

なお、JAしまねでは、28年産米から新たな取り組みとして、米の買取制度を導入し、早期に一括精算を行うことにより農家所得の安定化を図る一方、今後、地区本部管内では、

品質の安定している「ハーブ米きぬむすめ」を1.9ミリのふるい目幅で大粒に調整し、ブランド米として販売を促進したり、2年連続「特A」評価を取得した「つや姫」を奨励しながら、所得向上を目指していく計画であります。

(畜産振興)

次に、畜産振興について申し上げます。

島根県種畜共進会が10月22日、島根県中央家畜市場で開催され、肉用種牛・母系牛群の部において、本町から上田憲徳さんの飼育牛「みつひめ3号」と「みつよし号」が2席に入賞し、釣釜里恵子さんが連産牛表彰を受賞されました。

また、11月10日に開催されたJAしまね島根おおち地区本部管内子牛共進会では、上田憲徳さんの「みつ号」が首席を受賞されました。

市場の子牛価格は、10月以降も、去勢牛平均で90万円台の高値で維持されておりますが、飼料価格も高騰している状況にあります。

優良牛の生産に向け、今後も関係機関と連携を図りながら支援をしてまいります。

(耕作放棄地対策)

次に、耕作放棄地対策について申し上げます。

昨年、実施した農地パトロールをもとに、未作付け農地の所有者へ、農地の利用意向調査を行い、このほど集計がまとまりました。

意向調査を行った約300件のうち、半数は、相続未登記等により確認作業ができない状況にあります。調査結果は、「農地中間管理機構及び農地利用集積円滑化団体が行う農地所有者代理事業を利用する」が38%、「自ら担い手を探す、耕作する」が13%、「その他（何もできない等）」が49%となっております。

今年度の農地パトロールは10月に終了しましたので、意向調査を反映させながら、農地流動化を関係機関と連携して進めてまいります。

(有害鳥獣対策)

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

有害鳥獣に対する防護柵等の設置補助の申請状況は11月末現在、38件となっております。

ツキノワグマの目撃情報につきましては、11月末現在、15件で、昨年同時期に比べ、8件の増となっております。11月には、民家付近の柿畑で被害があったことから、地

元自治会や学校へ注意喚起を促すとともに、県に対し捕獲許可の申請を行うなど安全対策に努めております。

(エゴマの生産振興)

次に、エゴマの生産振興について申し上げます。

今年のエゴマの作付面積は、昨年の14.74ヘクタールに対し、4.43ヘクタール増の19.17ヘクタールで、生産者・生産団体も、13件増の73件となっており、作柄は平年並みとなっております。

脱穀作業の効率化が課題の一つとなっている中、エゴマ専用の脱穀機を、昨年に続き1台、試作機を製作いたしましたが、今後一層改良を重ねていきたいと考えております。

(6次産業化)

次に、6次産業化について申し上げます。

国の地方創生加速化交付金を活用した6次産業化の取り組みといたしまして、「地域産業創出プラットフォームの構築事業」4,060万円の交付決定を、8月30日付けで受けております。

進捗状況につきましては、生産拡大と販路拡大を一体的に推し進めるため、9月23日に、川本町エゴマ振興協議会を発足いたしました。協議会は、生産者や加工業者、販

売事業者など12機関で構成し、生産部会、加工・販売部会を設けております。今年度、生産部会では、栽培基準や栽培暦づくりを進めていく計画であります。

エゴマ鴨処理加工施設整備の補助事業につきましては、公募、審査会を経て、11月に個人事業者を決定し、来年3月に施設が完成予定であります。事業が順調に推移するよう県など関係機関と連携を図り支援してまいります。

新商品開発・販路開拓委託事業につきましては、公募、審査会を経て、10月に民間企業1社を決定しております。現在、エゴマ鴨を活用した新商品の開発をはじめ、商談会への参加、市場調査などを進めているところであります。

今後、町民の皆様にも本町らしい商品として、中元や歳暮等で利用いただきたいと考えております。

(商工業振興)

次に、商工業振興について申し上げます。

全国の自治体では、小規模企業振興基本法制定を受け、地域経済の担い手となる小規模事業者が、地域の需要に応える事業展開を支援する体制づくりに向け、条例制定等の動きが進んでおります。

本町においては、11月2日に県中小企業課長を講師に招き、商工会、商店、町から21名が参加し、基本法制定

の背景やねらい、県の取り組みなど、現状や危機意識を共有したところであります。今後、条例制定に向け、関係団体と協議を進めてまいります。

起業支援につきましては、小売店舗等持続化支援事業により、個人事業者が小売店の事業継承を行い、今月、リニューアルオープンすることとなりました。

また、新規では、個人事業者が民家を活用して田舎カフェのオープンに向け、改修工事が進められております。

(観光振興)

次に、観光振興について申し上げます。

観光協会は、今年度から事務局を商工会から町へ移管し、9月からは専任スタッフ1名が、インバウンド事業や銀山街道商品開発会議、各種イベントへの参画をはじめ、観光協会ホームページのリニューアルを進めております。特に、三江線を利用した観光客への対応では、日々、駅舎に出向き、町のPRや案内に努めております。

なお、平成29年3月末まで、昼間の3時間に限定し、石見川本駅の駅舎を活用できるようJRから使用許可を受けましたので、観光協会会員や商店等が中心となり、三江線利用客へのおもてなしや本町のPRに努めてまいります。

イベント関係につきましては、11月6日に「第40回川本町産業祭」を開催しました。坂町からは特産の牡蠣の販売もあり、好評をいただきました。

また、11月12日、13日に坂町で開催した「坂町・川本町特産品フェア」、11月27日に道の駅インフォメーションセンターかわもとで開催された「萬菜市&収穫祭」においても、多くの来場者へ町をPRする機会となりました。

来年1月21日、22日には、広島市で「島根ふるさとフェア」、2月4日には、松江市で「島根スサノオマジック・川本町タウンデー」が予定されており、町の特産販売をはじめ観光情報を発信しながら、誘客につなげてまいります。

つづいて、

「便利で快適に暮らせる基盤が整うまち」に関する動きについてであります。

(住宅整備)

はじめに、住宅整備について申し上げます。

今年度の定住促進住宅整備につきましては、木路原地区と三原地区に各2棟の整備を進めております。先日入居希

望者の応募を締め切りましたので、今後入居者を決定し、4月には新しい住民を迎えることとなっております。

(町営住宅の改善)

次に、町営住宅の改善について申し上げます。

国の社会資本整備総合交付金事業の補助金を受けて、因原の八幡平団地改修工事を行っており、3月中旬に完了予定であります。また、久座仁の五反田団地階段手すり設置工事につきましては、1月中旬には完了予定であります。

「川本町公営住宅等長寿命化計画」の見直し業務の入札を11月30日に行い、3月末までの期間で発注しました。IターンやUターン、若者から高齢者まで住みやすい整備計画に変更するとともに、改修を行い公営住宅の長寿命化を図ってまいります。

(道路整備)

次に、道路整備について申し上げます。

町道事業の町道中倉日向線改良工事につきましては、今年度事業として発注した飛渡（とびわたり）地区に渡る橋梁工事が3月末までに完了いたします。また、本線部分においても改良工事を進めておりますが、28年度末での進捗率は79%と見込んでおります。

県道事業の一般県道川本大家線につきましては、今年に入り崩土が2箇所、落石が2箇所発生しており、落石箇所につきましては、現在も通行ができない状況にあります。特に三俣地内の落石による全面通行止の箇所につきましては、現在対岸側にバイパス工事を施工中であり、県においては、バイパス道に仮橋を設置し迂回路とすることも検討されておりますので、本町といたしましても、早期の開通に向け県に対し強く要望しているところであります。

(簡易水道)

次に、簡易水道について申し上げます。

国の簡易水道再編推進事業を活用し施設の整備を進めておりますが、8月には川本水源地の紫外線殺菌装置整備工事、11月には因原地区の新配水池敷地造成工事を発注いたしました。また、今年度においては、川本東大橋の橋梁添架部分の配水管更新工事を発注することとしております。引き続き、安全で安定した水道水の供給を目指してまいります。

つづいて、

「安心して暮らしやすい生活環境のまち」に関する動きについてであります。

(交通対策)

はじめに、交通対策について申し上げます。

役場庁舎移転に伴い、ご要望がありましたスクールバスの役場庁舎前までの路線延長につきましては、川本町地域公共交通会議を経て、中国運輸局からの認可を受けました。

12月1日から、8時6分役場前到着便をはじめ4便が役場前を発着しております。町民の皆様の利便性につながることを願っております。

(米軍機騒音対策)

次に、米軍機騒音対策について申し上げます。

県西部を中心とする米軍機の飛行訓練による爆音等で多くの町民が耳をふさぎ、不安を訴えています。

こうした町民の不安解消と安全確保を図るため、浜田市、益田市、江津市、邑南町及び本町の3市2町で構成する米軍機騒音等対策協議会は、10月14日に防衛省や外務省に対して「島根県における米軍機による飛行訓練の中止等の要請」を行いました。

今後も、騒音被害が解消されるよう関係機関と連携を図り取り組んでまいります。

つづいて、

「みんなが健康で安心にいきいきと暮らせるまち」に関する動きについてであります。

(介護保険事業)

はじめに、介護保険事業について申し上げます。

介護保険制度の改正に伴う、来年度からの新しい介護予防・日常生活支援総合事業については、訪問介護、通所介護は既存の事業所の専門職による現行のサービスを継続しながら、ボランティアの養成等を行い、住民主体で参加しやすく、地域に根ざした介護予防活動や生活支援の基盤づくりを進めてまいります。11月29日、30日には42名の参加を得て、高齢者生活支援ボランティア養成講座を開催しました。

また、2月26日に、さわやか福祉財団の清水理事長を招き、「地域づくりフォーラム」を開催いたします。

今後、一人一人の能力に応じた柔軟なサービスの提供により、住み慣れた地域での自立した暮らしの支援に努めてまいります。

(地域医療構想)

次に、地域医療構想について申し上げます。

10月7日に開催された県医療審議会において、島根県地域医療構想が策定され、大田圏域の2025年度の必要病床数は、37.7%の減少となりました。

今後は、県の「医療審議会専門部会」や医療圏域ごとに設けられた「地域医療構想調整会議」の中で、全ての患者が必要な医療を受けることができる医療体制の整備に向けて、継続的に検討が行われることとなります。

つづいて、

「夢や希望をはぐくむ教育・文化のまち」に関する動きについてであります。

(学校教育)

はじめに、学校教育について申し上げます。

来年度入学する児童が、小学校の雰囲気から早い段階から慣れるため、11月17日に川本小学校で1年生と保育所年長児が、色々な遊びをとおした交流を行いました。

川本中学校吹奏楽部におきましては、10月29日に東京で行われました日本管楽合奏コンテスト全国大会に初出場しました。大会では練習の成果を出し切り、堂々とした素晴らしい演奏を行い「優秀賞」を受賞し、副賞として1

校のみに授与される「ブレン賞」を受賞しました。

小・中一貫教育につきましては、教育委員会において、9年間の教育課程の運営及び施設について研究を進めております。

(教育環境魅力化事業)

次に、教育環境魅力化事業について申し上げます。

今年度初の試みとして、早い時期から英語に親しむ環境づくりを目的に、10月15日にイングリッシュキャンプを小学校4年生以上を対象に行いました。

中学校の英語教諭や小・中・高の外国語指導助手との交流や、英語を使ったコミュニケーションゲーム等を行うことによって英語を学ぶことの楽しさを体験することができました。

10月27日には、川本小学校と川本中学校において、日本サッカー協会主催による「夢の教室」を行いました。

元Jリーガーの佐伯直哉^{さえきなおや}氏を講師に招き、自身の経験を踏まえて「向上心を持ちながら努力する」ことの大切さや仲間と協力することなどを学びました。

10月から「自らの学び応援事業」を活用して、小学生から高校生までの児童・生徒23名が、学習塾を受講しております。引き続き家庭学習に対しての支援を推進してまいります。

(川本北公民館の移転)

次に、川本北公民館の移転について申し上げます。

川本北公民館は施設全体を「三原まちづくりセンター」とし、11月13日に三原地域のきんさい祭りに合わせて、移転のオープニングセレモニーを行いました。

この新しい公民館を活用し、文化・体育・健康増進等の生涯学習に励み、心豊かで安全安心な地域づくりができるような活動の推進と、多機能な施設としての活用を図りたいと考えております。また、平成30年春に進出する株式会社三協との連携共同の核施設となることも期待しております。

(社会体育)

次に、社会体育について申し上げます。

9月1日から13日まで、第58回川本町親睦野球大会を開催しましたところ、8チームの参加により熱戦が繰り広げられました。

また、11月12日には、第61回川本町一周駅伝競走大会を実施し、町内の自治会、職場、学校を中心にして20チームの参加がありました。

今年のコースは県道の通行止めの関係で、往復コースとなりましたが、町民の皆様には沿道から大変多くの声援をいただき、大いに大会を盛り上げていただきました。

(人権教育)

次に、人権教育について申し上げます。

第68回人権週間に合わせて、人権尊重思想の普及高揚を図るため、12月8日に高校生の企画運営により「川本町人権を考えるつどい」を悠邑ふるさと会館で開催しました。

視覚障害の音楽家の^{まえかわ ゆみ}前川裕美氏を講師に招き、「夢みる力を信じて～ともに生きる未来へ～」というテーマでコンサートと講演会を実施しました。

障がいがあっても夢を持ち、その夢を実現させる努力の大切さを学びました。

(文化振興)

次に、文化振興について申し上げます。

9月20日に悠邑ふるさと会館大ホールにおいて、「オーケストラ・アンサンブル金沢」の演奏会を開催しました。

この演奏会は悠邑ふるさと会館の開館20周年を記念して、初の開催となるプロのオーケストラによる本格的なクラシックコンサートを企画したものです。当日は町内外から600名の音楽愛好家の皆様に来場していただき、クラシック音楽の魅力をたっぷり堪能していただきました。

つづいて、

「人と人が支え合う協働のまち」に関する動きについてであります。

(高校支援)

はじめに、高校支援について申し上げます。

島根中央高校の入学生の確保を目指し、県外での生徒募集活動などを行うとともに、高校の魅力化を図るために、高校と一緒に地元保護者との懇談会を行うなど、様々な取り組みを行っているところです。志望校決定や入試準備が本格化する時期を迎え、受験への支援に万全を期すとともに、受け入れ体制を整えてまいります。

(企業誘致)

次に、企業誘致について申し上げます。

株式会社三協の会社説明会を12月3日、4日、代表取締役社長と代表取締役専務が来県され、大田市・江津市・浜田市において開催されました。

既に10名が採用となり、本社において研修中であります。なお、その他現在の内定者は4名となっております。

工場敷地造成につきましては、1期工事が平成29年3月に完了予定であり、2期工事は、29年4月以降、工事

発注をする計画であります。

新設道路整備は、平成29年3月に測量調査設計業務が完了し、4月以降、用地買収、工事発注を進めていく計画であります。

同社では、工場立地の事業計画が整い次第、県へ提出し、審査を経て、企業、県、町の3者により工場立地の覚書を交わす予定であります。

なお、基盤整備に係る必要経費を、今定例会の補正予算に計上しておりますので、ご審議の程、よろしくお願い申し上げます。

(窓口おもてなし)

次に、窓口おもてなしについて申し上げます。

今年度、11月末現在で、婚姻3件、出生13件、転入96人76件の届けがあり、窓口にて記念の品をお渡ししました。

今後も、「おもてなし」の心を持ち、窓口対応に努めてまいります。

(提出議案等)

今定例会に提案しました案件は、条例案件2件、予算案件4件、人事案件2件であります。

後ほど、担当課長から、これらの説明をさせますので、慎重なご審議をいただき、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。行政報告とさせていただきます。